

### 瀬越憲先生を悼む

弘教寺の「お寺のコンサート」をいつも企画して下さった瀬越先生が九月二十八日に往生されました。先生はコロナ禍前に、次回は引退のコンサートをしたと話されていたのですが、コロナのために延び延びとなっておりました。残念ではありません。

コロナの方も落ち着いてきたこともあり、一月に「今年是实现しましょう。」と話がまとまりました。

先生とは四十年近いお付き合いでした。婦人会の例会でチェロを弾いてくださったのが、先生とのお付き合いの始まりです。以後、定期的にコンサートをお願いすることになりました。平成十六年から、寺の報恩講法要のイベントとして毎年、「お寺のコンサート」をお願いすることになりました。全九回の後半は、隔年となりましたが、先生の企画力はさすがで、毎回素晴らしいチェロと他楽器との共演を、皆さんに聴いていただき、感動して帰っていただきました。

先生からのお願いとして、最後のコンサートは、指導してこられた現在立派に活動している教え子の皆さんと共に演奏をしたい、というお考えでした。その思いを何とか実現させたいと思いましたが、六月ごろだったと思います。今後はハンガリーや国内で指揮者として活躍している金井俊文先生と打ち合わせを進めて欲しいとのことでした。



そして九月、先生の訃報はあまりにも突然でした。病状が悪化して急逝されたのです。生前のご遺志を受け、私の方で葬儀を勤めさせて頂きました。

コンサートは、是非ともご指導いただいた皆さんで実現して欲しいとのご家族の想いを受け、打ち合わせを重ね、十一月四日に「繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達」のテーマで教え子の皆さんによるコンサートが実現しました。先生はそこにいらっしやなくても、先生の想いやお心が体現された素晴らしい演奏会でした。きっとそばで演奏する皆さんを後押ししてくださいましたことと思います。

弘教寺で瀬越先生が大切にされた思いと企画を、教え子の皆さんが、これからも引き継いでいってほしいと思います。

先生、長い間本当にお世話になりました。

合掌

住職 拝

### 特集 繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達

◇演奏者紹介◇ \*前3人は高校生時代からの教え子。

金井俊文…ピアノ、指揮。ハンガリーの交響楽団の指揮者。国内各地でも活躍。

茂木建人…サクソフ。総文や吹奏楽連盟主催のコンテスト等の審査員。高校等の講師。



想いを音楽にのせて...♪  
瀬越憲先生の愛弟子たち  
リハーサル♪

金井千織…ファゴット。ハンガリーの交響楽団の首席ファゴット奏者。俊文氏は、夫君。

横尾武宜…チェロ。県内アマチュアオーケストラに参加。小学校教諭。瀬越先生のチェロ一番弟子。H27年ソロコンサートで共演。

# ～繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達～

※特集※

～繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達～



チエロの調べに癒されて  
 コロナ禍で中断していた「お寺のコンサート」が再開された。クラシック音楽に詳しくない私だが、弘教寺のコンサートは大好きで、いつも参加させてもらう。人間の声にとっても近いと言われるチエロの音色は豊かでやさしく、聞き心地が良い。このコンサートで瀬越先生のチエロの演奏に出会えたのだった。弘教寺の家庭的な雰囲気、出演者、スタッフ、そして観客全てが清々しい空気にも包まれているコンサートを聞き、瀬越先生のこのバトンがお若いお仲間にも確実に引き継がれていることを実感した。

久しぶりに生演奏を聴き、感動しました。特に「チャールダーシュ」のサクソ演奏、とりこになりました。もう一度聴きたいです。有難うございました。

「お寺のコンサート」にお招きいただきましてありがとうございます。  
 私は午前中から用事があった、なんだかざわついた気持ちで会場に行きました。演奏が進むにつれて、ざわついた気持ちが落ち着いてくるのが解りました。生演奏の効果を全身で受けとめることができました。ありがとうございます。  
 ピアノ演奏と司会をなさった方のお人柄の良さは会話の中で感じる事ができました。ファゴットは初めて見る楽器でした。低音が素敵でした。「チャールダーシュ」、私はお酒が好きなので同感でした。#ひまわりの皆さんの声が奇麗だった事。皆で歌った「ふるさと」も楽しかったです。こまごまとお手伝いする二人の息子さん。大きくなられましたね。最初の頃は小学生くらいでした。「音楽は癒し」を改めて感じたコンサートでした。



※特集※ ～繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達～

※特集※  
繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達

やはり涙出ましたよね。私だけかと思っていました。素敵なコンサートにお誘いいただきありがとうございます。チャールダーシュの速弾きも感激でした。



平凡に生活している主婦、  
というか後期高齢者の私が「お寺のコンサート」を聴き、とっても感動しました。瀬越先生の教えを頂いた、日本で、外国で、活躍する演奏家によるコンサート、とても楽しみました。間近で演奏を聴き、音が肌に響き、それがとても心地良く、夢の生演奏でした。ピアノ、サクソ、ファゴット、チェロと演奏者が出て来る度に期待し、楽器の歴史も学べ、心が満たされ最高の時間になりました。とても感謝です。



感動しました!お友達が心が洗われたと言っています。すみれ…良い曲ですね!涙がでました。ひまわりも素敵な曲でした。一番左の方のソプラノの声が素晴らしかった♪世界で活躍している演奏家の方の演奏を、あんなに近い距離で聴かせていただき、本当にありがとうございました。お寺で賛美歌やミュージカルの曲が聴けると思っていました…

バンドの演奏者の音色に癒されました。私たちも皆で頑張ったいい思い出の1ページです。お世話になりました。坊守さんも準備、本番とお疲れ様でした。心を込めて歌いました。ご来場の方々にすべての演奏が伝わり、「ふるさと」の歌で皆さんと歌えて感動をいただきました。



先日は貴重な体験、時間を…有難うございました。あと10年も経ったら…



懐かしい尊い思い出だったなあと感慨深いものを感じられるのでしょね。

私の人生の晩年期にこんな場面が訪れるなんて思ってもみませんでした。忙しく動かれていた坊守さんや先輩方、とっても輝いて見えました。

昨日のコンサートに感激しました!久しぶりに葵先生にもお会いでき、皆さんにもあえて良かったです。サクソの演奏、瀬越先生と共に聴けたのでしょうか。涙が止まりませんでした。

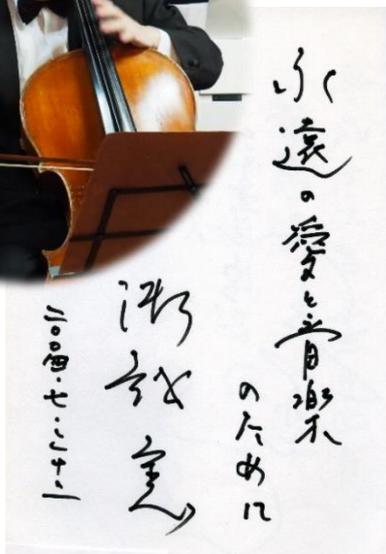
※特集※  
繋ぐバトン、瀬越憲の仲間達

コロナと言うパンデミックの影響を受けて3年以上も開催されることを阻まれていた「お寺 de コンサート」がようやく開催されることとなった。やっと演奏ができるかもと頑張っていた矢先の夫の急逝で急遽追悼演奏会という形で実現された。



お招きを受け、数年ぶりに訪れたお寺ではすでにリハーサルが始まっていた。ほどなくして、ファゴットから夫の曲「すみれ」が奏でられ、あまりの素晴らしさにこみ上げてくるものを抑えられず涙が止まらなくなってしまった。本堂が暖かい優しいファゴットの音色に包まれ、聴きなれていたはずの曲がまるで別の曲のように思えるほどだった。華奢なお体いっぱい大きなサイズの楽器をいつくしむように抱えたお姿、優しいお人柄もそのまま表れた音色に震えが止まらなかった。

夫君の金井さんは、今回のすべての進行を受けついでくださった国内外でご活躍の有望な指揮者。留学する前に我が家にお尋ねくださってから何年になるだろう。立派におなりになった姿を拝見してシミジミ感慨に浸ってしまった。そして、人が人を呼ぶ倅いか、サクスの茂木さんも又御賛同いただき、ロマンチックな音色で奏でいただき、その容姿とともに観衆をうっとりさせているようだった。



夫の何が、こんな人たちの心をつかんでいたのか、普段家で見せていた顔からは信じられないエピソードばかりを聞く。思い出話に花が咲く中、おそらく、かなり盛って話された部分もあったと思うけれど、夫の人となり垣間見ることができ、つくづく幸せな人だったなど皆さんに感謝するばかりだった。

そして唯一チェロの最後の弟子として晩年までお付き合い頂いた横尾さん、アマチュアながら研鑽を積んで、先日初のCDを出せたと仰ったばかり、不器用で、朴訥で、生真面目なお人柄は人を和ませてくださる。今回の共演話を僕なんて恐れ多いと謙遜なさったけれど、なんと、主人が憑依したかのように、いやむしろそれ以上に素晴らしいチェロを聴かせてくださった。

本来は金井さんのピアノで夫がチェロを弾きたいという計画もあったようだ、夢かなわずで終わりはしたけれど、きっと喜んでいるはず。30年以上お世話になったご住職からもこれを機に、こうした活動を続けて受けついでもらいたいと言っていたことは本当にうれしい。音楽が「音」が「苦」ではいけない。老若男女が楽しんでこそ「音楽」と言っていた夫の言葉を思い出した。それを意識してか、今回初めて聞かされた「ひまわりの歌」は夫の手によりできた歌だった。おそらく80近いと思われる男性もお一人、ご婦人方のコーラス隊に混ざって気持ちよさそうに歌っていらした。みんな、お歳を感じさせない美しい歌声で感動した。

最後はみんなで「故郷」を合唱させていただいた。ピアノ、チェロ、ファゴット、サクスの贅沢な伴奏付きだ。すっかり声が出ずらくなっていたこの頃、歌うことの大切さを思い出させていただいた。

ただ、予測はしていたけれど、最後に一言ご挨拶を頂きたいと打診はあったものの、夜も寝ないで考えて、そらんじたスピーチが、いざマイクを持たされたら頭が真っ白。カンニングペーパーも涙で曇りはじめ、しどろもどろの挨拶になってしまったことが悔やまれる。人前でマイクを持つなんて若かりし頃の教育実習以来。同僚はいるのに、なんで私なんですか?と言ったら大きくて目立つからと、相手はカボチャと思えばいいなんぞと、ふざけたことをのたまわれた。さすがに、多くのお客様は信心深い檀家様たち、カボチャとは思えない。仏さまのバチが当たる。

うろたえる背後で何やってんだと夫が叱っていた気がするが、誰のせいでしゃべらされているのだと言ってやりたい。

息子たちが伝わったよと言ってくれたので、振り返らないことにしよう。

瀬越清美

\*お許しを得て、瀬越先生の奥様瀬越清美様の SNS の投稿を掲載させていただきました。